

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		キノコにじいろクラブ					公表日	令和8年2月20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		スペースを有効活用し、楽器・運動・玩具エリアを確保しています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	・子どもの特性によって必要な時には余裕を持った支援ができる人数配置しています。子ども一人ひとりの特性に応じた余裕ある配置を心がけています。	要件は満たしているものの、受入れニーズがまだまだある為、さらなる人材確保の対策を講じ、支援の質を高めます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・ヒヤリで上がったところはすぐに改善し、どの子にも安全に過ごせる環境を設定している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		・日々、週1、月1と清掃や安全点検等おこなっています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		・個室の確保を必要な時におこなっています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5		・情報を視覚化し、分類しながら常に報連相やPDCAサイクルができる環境を工夫しています。	会議の目的を意識して、ポイントを押さえた目標設定や振り返りができるようにしていきたいです。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		・評価表の内容が周知され、ニーズの把握を行い、チームで対策を考えるようにしています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議や形式的な場だけに限らず、コミュニケーションをまめに取りながら意見が拾い上げられるようにしています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		外部評価を定期的に受け入れ、結果を活かした改善を進めています。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修や内部研修を積極的に実施し、職員のスキル向上に努めています。	経験値や専門性、個性の異なる職員に対して個別的な研修の機会を検討していきます。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを丁寧に作成・公開し、保護者にもわかりやすく伝えていきます。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5		客観的なアセスメントに基づき、個別最適な計画を作成しています。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		全職員で共通理解を持ち、子どもの最善を第一に計画を立案しています。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画を全員で共有し、一貫した支援を提供しています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		フォーマル、インフォーマルを織り交ぜ、事業所独自の評価バッテリーを用いています。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		週1回のケース報告の共有の中で発達支援、家族支援、地域支援についての方向性を共有し、具体的な支援内容を確認している。	児童発達支援計画の内容を把握し、事業所での通所支援（発達支援）ペアトレや相談支援（家族支援）保育所等訪問や関係機関との連携支援（地域支援）について各自が役割を自覚できるように共有を行います。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		チーム全員で協議し、多角的な視点からプログラムを作成しています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		前回の記録を基に柔軟に内容を見直し、子どもに合った活動を提供しています。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別・集団をバランスよく組み合わせ、成長を促しています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎回の事前打合せで役割分担を明確にし、連携を意識しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		終了後の振り返りを徹底し、次回に活かしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		本人の変化は大小関係なく記録に細かく記載しています。また、毎日支援前に打ち合わせも行っていきます。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		ペアトレや面談を通して、本人のニーズを確認できるように積極的にコミュニケーションを取っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		子どもの状況を良く知り、専門的知見で説明できる職員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		町内の乳児検診や親子教室に講師を派遣したり、教育・福祉機関と密に連携し、包括的な支援をしています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		担当者に必ず参加し、支援の共有や方向性の確認をしています。園への定期的な訪問で状況を把握し、どうしたらより集団の中で活躍できるかを考えて支援しています。	並行通所している児童発達支援事業所との連携を図るために顔の見える関係性作りを進めています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		小学校等との連携を強化し、円滑な移行を支援しています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5		地域の児童発達支援センターからの情報は着実にキャッチできるようにしています。	スーパーバイズや助言は他地域にある機関にお願いしているので、地域の中でできることがあれば活用していきたいです。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	イベント(にじいろDay等)で兄弟児の参加を呼び掛けています。地域イベント(PeaceDay等)を活用し、インクルーシブな交流を増やしています。	地域の中で子ども達が交流できる機会に参加を促したり、企画したりしていきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日常的に保護者と情報共有し、信頼関係を築いています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		全員にペアレントトレーニングを実施し、家庭支援を強化しています。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		初回面談等で丁寧に説明し、保護者の理解を深めています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		保護者・子どもの声を尊重し、意向を反映した計画を作成しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5		計画を丁寧に説明し、保護者の同意をいただいています。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		ペアトレを通して日頃からコミュニケーションを気軽に取れるよう工夫しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		保護者会や勉強会等を定期的に実施しています。イベント開催等で保護者・きょうだい同士の交流を促進しています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		面談等を通じて迅速に対応し、信頼される体制を整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		活動概要や予定を積極的に発信し、保護者とのつながりを大切にしています	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報保護を徹底し、情報を全員で周知徹底し、安心してご利用いただけるよう努めています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		個々の特性に合わせたコミュニケーションを心がけています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		学会やイベントで地域の方をお迎えし、地域とのつながりを深めています	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを整備し、定期訓練で対応力を高めています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPを策定し、避難訓練等を定期的に実施しています。年間で避難訓練実施計画を作成し、実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		服薬・健康状況を事前に確認し、安全な支援を徹底しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	基本的に食事の提供がないため、アレルギーや対応の把握は行いが、対応することはほとんどない状況です。	・契約時の面談等で食事に関する留意点の情報を収集する。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画に基づき、研修・訓練を徹底しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画の内容を保護者に丁寧に説明しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットを全員で共有し、迅速に改善策を講じています。また、1ヶ月に一回振り返りを行なっています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		所轄組織が開催している研修に参加し、伝達研修を行なっています。職員への人権擁護アンケートも年2回行なっています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5		身体拘束は極力避け、やむを得ない場合も事前説明・同意を得ています。		